

名古屋 家庭科教育 1
-------------------

名古屋
-----

栄小学校
------

タケナカ ミナミ
名前 竹 中 美 波

分科会番号	10
-------	----

分科会名	家庭科教育
------	-------

## 研究題目 生活をよりよくすることができる児童の育成

### 研究要項

#### 1 研究のねらい

予測困難な時代を生きる児童には、様々な暮らしの変化と向き合い、家庭生活をよりよくしようとする態度が必要だと私は考える。

児童に、家庭科でどのようなことができるようになりたいか聞いたところ、「いろんな料理ができるようになって家族に作りたい。」「妹のために筆箱を作りたい。」と、初めて学ぶ家庭科を楽しみにし、意欲的な様子が見られた。「おいしい楽しい調理の力」の学習では、ゆで野菜サラダの調理実習で「ちょうどよい固さで茹でられた。」と満足そうにしていた。しかし、「野菜を同じ大きさに切れない。」と、自らの課題に気付いていても、どうすればその課題を解決できるのかということまでは、考えることができない児童が多く見られた。

このような児童の姿から、生活をよりよくすることができる児童を育成していくためには、自分の課題に気づき、それに合った解決方法を、考える力が必要だと考えた。

#### 2 研究の手立て

##### 手立て① 自らの課題に気づき、自己調整するための工夫

毎時授業のはじめに「どんなことを、どのように取り組むか」という観点で個別の目標である「マイミッション」を決め、それぞれの目標に向かって活動に取り組む。そして、授業の終わりに「できたところ」「困ったところ」「次こうしたいところ」という3つの観点で振り返りシートに記述をする。「マイミッション」に対して3つの観点を設定し、振り返ることで、自らの課題に気付くことができると考える。また、その気づきから、課題をどのように解決していくか、どのような活動に取り組むとよいかなどを振り返らせることで、次の学びにつながるような自己調整ができると考える。

##### 手立て② 課題に合わせた解決方法を考えるための学習環境の整備

手立て①で考えた課題やその解決方法を基に、それぞれの目標に向かって活動に取り組む自由進度学習を行う。自由進度学習の際には、動画資料をタブレット端末から見るようにしておいたり、黒板に資料を掲示したりする。様々な資料を選択できる学習環境を整備していくことで、児童が課題に合わせて解決方法を自ら考えることができるようになると思う。

### 3 実践計画

実践題材 ひと針に心をこめて (全9時間)

針と糸を使ってできること	0.5時間
手ぬいにトライ!	裁縫道具の安全な使い方 0.5時間 いろいろなぬい方 3時間 (第一次実践) 小物の製作 4時間 (第二次実践)
手ぬいのよさを生活に生かそう	1時間

### 4 実践の様子

(1) 第一次実践 (2~4時) いろいろなぬい方

#### ① 本時のねらい

- ・ 基本の縫い方が正しく安全にできるようにする。
- ・ 自分自身の課題を理解し、解決に向かうことができるようにする。

#### ② 具体的な手立て

手立て① 自らの課題に気づき、自己調整するための工夫

授業のはじめに、自分の課題に対して「どんな縫い方をどのように取り組むか」という観点で「マイミッション」を決める。「マイミッション」に取り組み、本時の振り返りを行う際に、「できたところ」「困ったところ」「次こうしたいところ」の3つの観点を見童に示して記述させ、自らができるようになったことや課題について確認し、次時につながる自己調整ができるようにする。

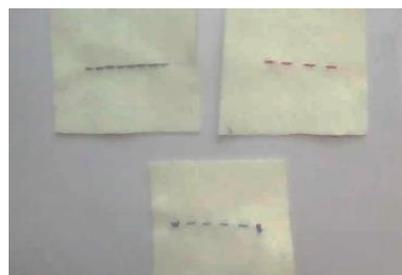
【使用したワークシート】

手立て② 課題に合わせた解決方法を考えるための学習環境の整備

タブレット端末で見ることができる動画資料・オノマトペを用いた掲示資料・縫い方の実物見本をいつでも活用できるようにし、見童が自らの課題に合わせて解決方法を探し、選択できるようにしておく。



【掲示資料】



【縫い方の実物見本】

### ③ 実践の様子

手縫いでどんなことができるようになりたいか聞いたところ、「マスコットを作りたい。」「筆箱を作りたい。」と児童一人ひとりが思いをもち、手縫いに対して意欲的な姿があった。そこで、手縫いでオリジナルグッズを作ることを学習のゴールにした。オリジナルグッズを作るためには、様々な縫い方を習得する必要があることを確認し、学習の計画を立てた。

はじめに、教師が拡大見本を用いて縫い方を実演した後、「とん」「ぐるぐる」などのオノマトペを用いながら、確認した。「ぐるぐる、きゅ」と唱えながら手縫いの練習に取り組んでいる姿が見られた。そして一度全員1回は初めて行う縫い方に取り組んでから、「マイミッション」に取り組んだ。

動画資料や掲示資料で縫い方を確認したり、実物見本と自分の縫った物を見比べたりして、練習に取り組んでいた。それぞれに合った方法で何度も自分の課題に向かっている姿が見られた。自分が出来ているかどうかは縫い方チェック表を用いて自分で確認できるようにした。自分の縫い方ときれいポイントを見比べながら、「ボタンを少し浮いて付けることができたから花丸かな。」「なみ縫いがまだがたがたしてるから丸かな。」と確認している様子が見られた。つまりいている児童が多いところは、ミニ授業を行い、縫い方を確認した。

授業のおわりには、「できたところ」「困ったところ」「次こうしたいところ」の3つの観点で振り返りを行った。「なみ縫いがきれいにできた。でも、玉結びができなかった。次は玉結びに取り組みたい。」「ボタン付けで二つ穴ボタンはできたけど、足付きのボタンはできなかった。次は足付きのボタンを頑張ってつけたい。」といった記述があった。

### ④ 成果と課題 (成果：○ 課題：●)

【手立て①】○ 「マイミッション」を設定すること

で、自らの課題について、見通しをもち、学習に取り組むことができた。



【今日のマイミッションを書いている様子】



【タブレットで動画を見ながら確認する様子】

ぬい方チェック表

☆で書いたら、○をつけよう！

ぬい方	レベル1 しりとり を縫うことができる	レベル2 ① 片側縫うことができる	レベル3 ② 正しいお針お糸の縫い方 で縫うことができる	きれいなポイント ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
玉結び	○	●	○	○
玉どめ	○	●	○	○
なみぬい	○	●	○	○
ボタン付け	○	●	○	○
木返しぬい	○	●	○	○
半返しぬい	○	●	○	○
かがりぬい	○	●	○	○

レベル1までは、全部がんばりやね！レベル2までは、さいほうの練習だ！

【ぬい方チェック表】



【掲示資料を見ながら確認する様子】

- 3つの観点で振り返ることで、自分の課題に気付くことができた。
- 一人では具体的に振り返ることができず、課題に気付くことができない児童がいた。振り返りの時間に相互評価をし、自らの課題を具体的に気付くことができるようにする必要があった。

【手立て②】○ 様々な資料を用意したことで、個々の課題に取り組む際の解決方法を自ら考えるきっかけとなった。

- 自分に合った資料を選ぼうとしている児童が多くいた。
- 自分の課題解決に必要な資料を適切に選ぶことができなかつた児童がいた。計画書を作成し、計画した作品が似ている児童でグループにし、困ったときに見たり聞いたりすることができるようにする。

## (2) 第二次実践 (5～8時) 小物の製作

### ① 本時のねらい

- ・ 適切な縫い方で、小物を製作できるようにする。
- ・ 自分自身の課題を理解し、解決に向かうことができるようにする。

### ② 具体的な手立て

#### 手立て① 自らの課題に気付き、自己調整するための工夫

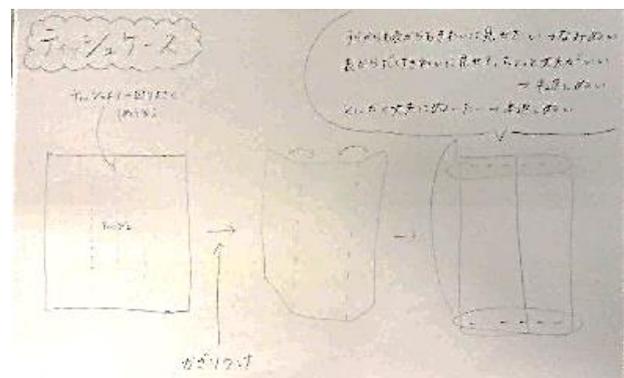
授業のはじめに、「マイミッション」を決め、課題解決に取り組んだ後に振り返りを行う。また、振り返りの時間に友だちの作品のよいと思ったところを「いいねポイント」として、ここはもっとこうした方がよいと思ったところを「アドバイスポイント」としてお互いに伝える時間を設け、より具体的な課題に気付くことができるようにする。

#### 手立て② 課題に合わせた解決方法を考えるため学習環境の整備

作品の実物見本・作品の作り方の紙を教師が用意しておき、児童が必要とする資料を活用し、課題に取り組むことができるようにする。また、自分で計画書を書き、それに沿って自分で計画を進めることができるようにする。そして、計画した作品が似ている児童をグループにし、困ったときに、見たり聞いたりすることができるようにする。



【作品の実物見本】



【作品の作り方】

### ③ 実践の様子

授業では、「だれに、どうして、どんなものを作りたいか」を考え、児童一人ひとりが思いをもって取り組んでいった。児童からは「おじいちゃんが長生きできるようにお守りを作りたい。」「妹が遊べるように、マスコットを作っあげたい。」「お母さんにティッシュケースを作っあげたい。」などの思いが出てきた。その思いをもとに、自分で工夫をしたいことを考えながら、オリジナルグッズ計画書を作成した。

毎回授業のはじめに、児童一人ひとりが、「マイミッション」として前時から出た課題をもとに、今日頑張りたいことを記入した。

次に、小物作りに取り組んでいった。実物見本を見ながら自分が作っている物を比較したり、小物の作り方の紙を見ながら「裏からも表からもきれいに見せたいからなみ縫いがいいね。」「使ってもほつれないように丈夫にしたいから本返し縫いにしよう。」など、自分の目的に合った縫い方を選択したりする姿が見られた。一人では分からないときは、グループの児童同士で互いに教え合いながら進めていく姿が多く見られた。そして、計画書で自分の進捗を確認していた。

最後に、授業で「できたところ」「困ったところ」「次こうしたいところ」の3つの観点で振り返りを行った。その後、「いいねポイント」「アドバイスポイント」をお互いに伝え合う時間を設けた。「玉結びが外から見えなくなっていていいね。」「本返し縫いで入り口が丈夫に縫えていいね。」と「いいねポイント」を伝えている様子や、「これは黒色のフェルトだから、黒糸で縫った方がいいんじゃない?」「玉結びは見えないように縫った方が見目がきれいじゃない?」と「アドバイスポイント」をお互いに伝え合う姿が見られた。また、「教えてもらったことを生かして、マイミッションに取り組もう。」と自分では気付くことができなかつた課題を

オリジナルグッズ計画書 (かみごん) のために作りたい!

完成品	材料と分量	必要な道具
	茶の布 紫の布 白の布(小)	糸(茶) 50cm 糸(紫) 50cm 糸(白) 50cm
手順	完成したところ	
① フェルトにしるしをつける。	糸が通る穴をあける。	
② フェルトを縫う。	きつくとはいに縫う。	
③ 玉結びを縫い合わせる。	玉結びを縫い合わせる。	
④		
⑤		
⑥		

※玉結びは、ボタンを縫い合わせる。ハンカチを縫う。ボタンの大きさに合わせて、ボタンを縫い合わせる。

糸が通る穴をあける。糸が通る穴をあける。糸が通る穴をあける。糸が通る穴をあける。糸が通る穴をあける。糸が通る穴をあける。糸が通る穴をあける。糸が通る穴をあける。糸が通る穴をあける。糸が通る穴をあける。

【児童が立てた計画書】



【相談している様子】



【グループで活動する様子】



【振り返りをしている様子】

教えてもらったことで、次時に生かそうとする姿も見られた。



【児童の作品】

④ 成果と課題（成果：○ 課題：●）

【手立て①】○ 「いいねポイント」として作品のよいところを伝え合ったことで、そのよいところを自分の作品にも生かそうとする姿が見られた。

○ 「アドバイスポイント」として互いの改善点を伝え合ったことで、具体的に自分の課題に気付くことができた。

● 「いいねポイント」「アドバイスポイント」を伝える時間が短く、伝えきれないこともあった。振り返りを行う時間を、十分に確保する必要があると感じた。

【手立て②】○ 計画が似ている児童を、同じグループにしたことで、友だちに聞くことのできる環境になり、活動をよりスムーズに進めることができた。

○ 計画書に沿って自分のペースで進めることができた。

● 同じところつまづいている児童同士だとそこで活動が停滞してしまうことがあった。つまづいたときは、個別に支援する必要があると感じた。

5 今後に向けて

生活をよりよくすることができる児童を育成していくためには、自分の課題に気付き、それに合った解決方法を、考える力が必要だと考えた。そこで、自らの課題に気付き、自己調整するための工夫と課題に合わせた解決方法を考えるための学習環境の整備を手立てとして行った。

単元を通して、毎回の授業で「どんなことを、どのように取り組むか」という観点で個別の目標である「マイミッション」を決め、自由進度学習に取り組み、「できたところ」「困ったところ」「次こうしたいところ」の3つの観点で振り返りを行った。そうしたことで、子どもたちがそれぞれの課題に気付き、それを解決しようとすることができた。

実際に、名札が壊れてしまったときに教師を頼らずに自分で直したり、エプロンのボタンが取れたときに「自分でボタンつけられたよ！」と見せに来たりと、課題が見付かったときに自分で解決しようとする姿が見られるようになった。しかし、実生活で上手く生かすことができない児童も見られるため、3つの観点での振り返りや、自由進度学習を取り入れつつ、学んだことを実生活に取り入れられるような活動の工夫を考えていく必要があると感じた。

今後も、児童が自分の課題に気付き、それに合った解決方法を考え、生活をよりよくすることができるような手立ての追究に努めていきたい。